

# 棚倉町教育委員会 令和3年度完了報告書

令和3年度「これからの時代に求められる資質・能力を育むためのカリキュラム・マネジメントの在り方」に関する調査研究の完了報告書を次のとおり提出します。

## 1. 調査研究概要

### 「キャリア教育を推進するカリキュラム・マネジメント

-夢をつなぎ志を育み、よりよく生きようとする子どもの育成-

#### 1 日常の教育活動における質の向上を目指した実践（○成果、●課題）

- キャリア教育意識調査、Q-Uテスト、各種学力調査などの結果を一覧できる「個人シート」を作成し、育成すべき資質・能力、学級集団、学力等のつながりを構造的に把握し、塩同に生かすことで児童の資質・能力を伸ばすことができた。
- 資質・能力の具体化と児童への意識化、保護者や地域との共有化を図り、資質・能力を協働して伸ばすことができた。特に、その過程においては、対話的な関わりが重要であることが確認できた。
- マネジメントサイクルを学期の数にとらわれず柔軟に設定することにより、資質・能力を効果的に育成することができた。特に、四半期（3ヶ月）ごとに育てたい資質・能力を評価していくことにより、教育課程も3ヶ月をひとまとまりとして評価・改善することにつながる事例も見られた。
- 日々の授業をとおして資質・能力を伸ばし、その結果を通知表の所見や指導要録に記入することで、日常の取組を学年末の評価につなげ、校務を効率的に遂行し、併せて教育活動の質の向上を図ることができた。
- 資質・能力が向上した子どもの学びの姿で取組を評価し、改善することで、質の向上を図ることができたが、それらの見取り方や発信の仕方が重要であることが確認できた。つまり、資質・能力を育むカリキュラム・マネジメントのレバレッジポイントは、「子どもの姿で成果を発信すること」であることが明らかになった。
- 「個人シート」と「キャリアパスポート」を活用し、キャリアカウンセリングを生かした対話的な関わりによる資質・能力の育成について、基本的な技法等について学び実践していく必要があることが明らかになった。

#### 2 実践校における調査研究の概要

##### a 学校の教育目標の設定及び実現に向けた研究（棚倉町立社川小学校）

- 四半期単位で評価サイクルを設定し、学校運営協議会の開催と連動させることにより、教育課程と教育活動の評価をこまめに行うことができ、評価を改善に生かすこともできた。特に、キャリアパスポート（四半期ごとの目標と振り返り）は、子どもの自己評価のツールとして児童理解を深めるだけでなく、担任と保護者が子どもの「ほめポイント」を共有して記入するコメントにより、子どもの自己肯定感も育まれた。
- 児童が自らの学びを振りかえることができる教育目標「自立の気風○自ら学ぶ○共に学ぶ○真似て学ぶ」により、自己の目標を評価し改善に生かすことができるようになり、「ほめポイント」の設定にあたって効果を発揮した。
- 教育目標の具現を図る手だてを整えたことで、児童、教師、保護者が教育目標を意識的にとらえ、自分自身で振り返る実践ができた。Q-Uテストと各種調査・検査をクロスして作

成した散布図とそのツールである「個人シート」をリンクするシステムの構築ができた。

- 教育課程を教科横断的に見通せる関連表に基づいて実践するとともに、キャリアパスポートと個人シートを連動させ、より個に応じた指導を展開していきたい。

#### **b 学習の基盤となる資質・能力の育成に向けた研究（棚倉町立高野小学校）**

- 思考の可視化やICT機器を活用したオンライン交流等による自己理解やコミュニケーション能力の育成ができ、「人間関係形成・社会形成能力」を高めることができた。
- 月指導計画を用いたショートスパンの評価・改善、教科横断的な視点での指導計画のシンプル化などを、ICT機器を活用して進めることができた。特に、月ごとに教育課程の反省を行うことで、教師が主体的に教育課程を評価・改善していくようになった。
- コミュニケーション能力の育成において、ICT機器や地域の人的、物的な資源を活用して「協働的な学び」を進めることができた。
- ICTや地域の人的、物的資源の活用による「個別最適化」と「協働的な学び」の両立や情報活用能力と育てたい資質・能力とを関連付けた育成などの指導法を検討する。

#### **c 現代的な諸課題に対応するための資質・能力の育成に向けた研究（棚倉町立棚倉小学校）**

- 「ほめポイント」の4つの化（見える化、共有化、意識化、強化）と四半期ごとにPDCAサイクルを回して資質・能力を育成することを連動させた指導、そして、「キャリアパスポート」や学習計画表において「ほめポイント」をもとにした対話的な関わりを推進し、児童と教師だけでなく、家庭や地域との共有も進められた。これらのことにより、児童の基礎的・汎用的能力、学力の向上につながった。
- 四半期ごとにPDCAサイクルを回すことから、子どもの資質・能力の向上が常に意識されると共に、四半期ごとの教育課程の評価と改善も同時に行うことができた。資質・能力が身に付いた児童の姿は「キャリアパスポート」教師のコメントで表現され、それを通知票の所見とリンクさせることで、資質・能力が身に付いた児童の姿を保護者と共有すると共に、通知票を作成する負担の軽減させ、教職員の多忙化解消、働き方改革につながった。
- 「キャリアパスポート」を活用したキャリアカウンセリングによる対話的な関わりを一層充実させ、「ほめポイント」による資質・能力の育成と「キャリアパスポート」の通知票・指導要録へのリンクによる教員の多忙化解消に取り組む。

(実践地域における年間実施スケジュール)

月	取組内容
4月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回町校園長会議（今年度の組織，活動計画等の確認）</li> <li>・各校における「カリキュラム・マネジメントの在り方に関する調査研究」の推進計画の確認</li> <li>・「カリキュラム・マネジメント検討会議」の組織編制，研究計画の確認</li> <li>・第2回町校園長会議（町学力向上計画，キャリア教育研究計画等の確認）</li> </ul>
5月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践校の取組（各校の研究計画による。以下継続）</li> <li>・第3回町校園長会議（実践上の成果と課題について情報交換し検証）</li> </ul>
6月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第1回キャリア教育意識調査実施</li> <li>・第4回町校園長会議（情報交換）</li> <li>・第1回Q Uテスト実施</li> </ul>
7月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・企画評価会議委員との連絡協議会（オンライン）</li> <li>・第1回カリキュラム・マネジメント検討会議（第1四半期の経過報告）</li> <li>・第5回町校園長会議（第1四半期の反省）</li> </ul>
8月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第6回町校園長会議（情報交換）</li> <li>・小学生職業体験学習（チャレキッズ）開催</li> </ul>
9月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第7回町校園長会議（情報交換）</li> <li>・中学生職場体験学習開催</li> <li>・実践校研究公開（ハイブリッド公開）</li> </ul>
10月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実地調査（オンライン：高野小学校）</li> <li>・第2回カリキュラム・マネジメント検討会議（第2四半期の経過報告）</li> <li>・第8回町校園長会議（情報交換）</li> <li>・棚倉町キャリア教育シンポジウム（ハイブリッド開催） （町全教職員が一堂に会し，各校の実践発表や講演を聴く）</li> <li>・企画評価会議委員（吉富委員）による支援訪問（高野小学校）</li> </ul>
11月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践校研究公開（ハイブリッド公開）</li> <li>・第9回町校園長会（情報交換）</li> <li>・実践校において教育課程編成（以下3月まで継続）</li> <li>・第2回キャリア教育意識調査実施 （第1回と第2回の結果を比較し，成果を検証する）</li> </ul>
12月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・実践校研究公開（ハイブリッド公開）</li> <li>・第2回Q Uテスト実施（第1回と第2回の結果を比較し成果を検証する）</li> <li>・学校評価実施</li> <li>・第3回カリキュラム・マネジメント検討会議（第2四半期の経過報告）</li> </ul>
1月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第10回町校園長会（第4四半期の取り組みの確認）</li> <li>・学力調査（CRT実施，前年度との結果を比較し，成果検証）</li> <li>・学校評価をもとに実践成果を検証</li> </ul>

2月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 11 回町校園長会議（第 1 年次のまとめ等の確認）</li> <li>・ 企画評価会議委員への中間報告会（オンライン）</li> <li>・ 第 4 回カリキュラム・マネジメント検討会議（第 1 年次の経過報告）</li> <li>・ 町教頭研修会（第 1 年次の実践発表） （実践成果を各校教頭が発表する）</li> <li>・ 1 年間の実践のまとめ</li> <li>・ 第 12 回町校園長会（次年度の実践について情報交換）</li> </ul>
3月	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第 1 年次完了報告書提出</li> </ul>

## 2. 調査研究の内容 （別葉による）

## 3. 実践地域全体としての調査研究の結果明らかとなった成果や課題と改善方策

（○：成果，●：課題）

- 諸調査の結果を一覧できる「個人シートの作成」や「育てたい資質・能力の具体化・意識化・共有化」「四半期ごと（或いは月ごと）の評価サイクルの設定」に取り組み、児童の基礎的・汎用的能力の向上を確認することができた。
- 資質・能力の向上した姿を通知表の所見や指導要録に記入することで、日常の取組を学年末の評価につなげ、校務を効率化、教育活動の質の向上を図ることができた。
- 資質・能力を伸ばした姿を通知表の所見や指導要録に記入することで、日常の取組を学年末の評価につなげ、校務の効率化、教育活動の質の向上を図ることができた。
- 1年間の実践を通して、「資質能力を育むという点からキャリア教育とカリキュラム・マネジメントは相性がよいこと」「マネジメントのレバレッジポイントは、子どもの姿で成果を発信すること」等を明らかにできた。
- 子どもの学びの姿（変容や成長）をどう見取りどう発信するかを工夫することが、教育課程の編成、実施、評価、改善に影響を及ぼす「資質・能力を育むカリキュラム・マネジメントのレバレッジポイント」であることが明らかになった。次年度は、子どもの姿で成果を発信することに取り組み、教育活動の質の向上を目指したい。
- 「個人シート」と「キャリアパスポート」を活用した対話的な関わりによって資質・能力を育成するために、キャリアカウンセリングの基本的な技法等について学び、肯定的に関わる手法について研修を積んでいきたい。

## 4. 参考資料 （別紙による）

### 【必須】

- ①実践地域の取組の概要が分かるもの
- ②カリキュラム・マネジメント検討会議の資料
- ※ 2年目は①実践地域の取組の概要が分かるものに代わり、カリキュラム・マネジメントの展開に資する手引きを提出すること。

### 【任意】

- ・ 各種アンケート結果
- ・ その他 参考となる資料